

四十一、九州大学演習林のスマスギ



(写真①)珪化木



(写真②)水面に伸びたスマスギの膝根

て整備され、皆さんのが自由に散策できるようになりました。ぜひ足を運んで想像してみて下さい。太古の篠栗に水没しの時代があつたことを。

九州大学演習林の本部がある津波黒地区の資源植物園内には、(写真①)の様な木の幹の化石(珪化木)が数多く見られます。これは約四千万年前に生えていたスギ科に属する樹木の樹幹細胞中に水溶性の珪酸がしみ込み二酸化珪素(SiO_2)に化学変化して化石になつたものです。珪化木は昔は炭坑から石炭と共に掘り出される場合が多かつたのですが、演習林には直径一メートルほどの根株が二メートル間隔でたくさん露出した所があります。これはこの場所で木々が立つたままの状態で化石化し、太古の林の様子を現代に残す珍しい光景です。根株の年輪を見ますと、幅一センチに二十数年が数えられます。これは木の成長として非常に遅く、当時の篠栗町は相當に寒冷であつた上に、屋久杉みたいに樹齢が千年以上もある大木が林立していたことが想像されます。

では化石となつた木の種類はどんな木だったのでしょうか。現在考えられているのは落葉針葉樹のメタセコイヤやスマスギではないかと思われます。記の資源植物園内に群落で植栽・展示されています。前述した珪化木が形成されるのに必要な環境から予測しますとスマスギではないかと思われます。

スマスギ(別名ラクウショウ)は、アメリカ東南部フロリダからメキシコにかけての沼に生えることから和名が付けられ、別称は葉が秋に落ちる際に、鳥の羽根のように羽片^{うへん}となつて落ちるので付けられた名前です。そして何よりも特徴的なのは、潜水具のシュノーケルと同じ働きをする気根^{きこん}を水底から水面に幾つも出す膝と呼ばれる膝根^{しちいん}を伸ばすことです。これは木が芽生えて十五年ほど成長した時、沼地に水浸して酸素不足を補うために起きる現象です。この貴重な状態が園内西南部の演習林境界に当たる蒲田池畔で(写真②)の様に見られます。こここの群落は約三十年前に植物園が造成された頃に植栽されたものです。本溜池周辺は二〇一〇年に篠栗九大の森とし